

悪い子の良い行動から何を読み取るか？ 自閉スペクトラム症を持つ小学生・中学生の善悪判断

米田英嗣 京都大学白眉センター特定准教授、小山内秀和 浜松学院大学講師、柳岡開地 京都大学大学院生、岡本悠子 福井大学特命助教、藤岡 徹 福井大学特命助教、新井清義 翔和学園教員、猪原敬介 日本学術振興会特別研究員 PD (電気通信大学)、子安増生 甲南大学特任教授、楠見 孝 京都大学教授、滝口慎一郎 福井大学特命助教、川谷正男 福井大学講師、熊崎博一 金沢大学特任准教授、平谷美智夫 平谷こども発達クリニック院長、友田明美 福井大学教授、小坂浩隆 福井大学教授らのグループの共同研究において、自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder: ASD)がある小中学生に、登場人物の特性と行動、物語の結末を操作した文章を読んだ後に、登場人物に対して善悪判断を行ってもらいました。その結果、ASDがある小学生、中学生は、登場人物の特性よりも、明示された行動に基づいて善悪を判断することがわかりました。

従来の研究では、ASDを持つ児童は悪意の理解が困難で、悪意を持った他人の一時的な親切にだまされやすいということが言われてきました。本研究の結果は、ASDを持つ小中学生が、一時的に良い行動を示したふだんは悪い子に対して「良い子」とであると判断しやすいことを新たに示しました。ASDを持つ児童が悪意を理解することが困難な原因として、他者が持っている特性に基づいてその人がこれから行いそうなことを予測することが困難である可能性が示されました。

この研究成果が、11月29日19時(日本時間)に英国科学誌「Scientific Reports」誌に掲載されました。www.nature.com/articles/srep37875

Komeda, H., Osanai, H., Yanaoka, K., Okamoto, Y., Fujioka, T., Arai, S., Inohara, K., Koyasu, M., Kusumi, T., Takiguchi, S., Kawatani, M., Kumazaki, H., Hiratani, M., Tomoda, A., & Kosaka, H. (in press). Decision making processes based on social conventional rules in early adolescents with and without autism spectrum disorders. *Scientific Reports*.

研究者からのコメント

この研究から、自閉スペクトラム症を持つ小中学生は、定型発達の小中学生よりも、登場人物の特性よりも、一時的な行動を手がかりに、善悪の判断をしていることがわかりました。他者の判断をする際に、その人が持つ特性よりも、その状況における行動に基づいて判断するという事は、先入観にとらわれず判断できる可能性があるかもしれません。今後は、自閉スペクトラム症を持つ人に対する詐欺被害の防止や、いじめ抑止につながる研究を進めていこうと思います。

概要

自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder: ASD)がある小中学生19名(平均12.5歳、女性は2名)と定型発達の小中学生20名(平均12.3歳、女性は2名)に、登場人物の特性と行動、物語の結末を操作した文章を読んだ後に、登場人物に対して善悪判断を行ってもらいました。その結果、一人の登場人物を読み返しの出来ない状況で判断する場合(実験1)、二人の登場人物を比較可能な状況で判断する場合(実験2)の両方において、ASDがある小学生、中学生は、登場人物の特性よりも、明示された行動に基づいて善悪を判断することがわかりました。特に、ASDを持つ小中学生が、一時的に良い行動を示したふだんは悪い子に対して「良い子」とであると判断しやすいことが示されました。ASDの児童が、他者

の悪意を理解することが困難な原因として、他者が持っている特性に基づいて推論し、その人がこれから行いそうなことを予測することが困難である可能性が示されました。

1. 背景

自閉症スペクトラム児は、悪意の理解が困難であると言われていています(子安, 2000)。たとえば、相手がだまそうとする際に相手の悪意に気がつかないことがあります(Frith, 2003)。こうしたことは、自閉症児および成人は他者の行動といった外的な情報は理解できるにも関わらず、人物の特性といった内的な情報を利用することが難しいことを示しています。近年の研究では、善意による行為が他人に害を与えてしまう状況について、自閉症者は、定型発達者と異なり、悪い行為であると評価することが示されました(Moran, et al., 2011)。現実場面では、良い人が必ずしも良い行動をとるとは限りませんし、悪い人がいつも悪い行いをするわけではありません。そこで、本研究では、登場人物の特性の善悪、登場人物の行為の善悪、登場人物が行った行為の結末の善悪を組み合わせた物語を作成して、ASD を持つ小中学生が行う善悪判断の方略を検討しました。

良い特性・善意	悪い特性・悪意
たける君は、お父さんを喜ばせるのがすきなやさしい子です。	ともお君は、わがままで自分のことばかり考えている子です。
お父さんが好きなサッカーの試合を、いっしょに見に行こうと言いました。	お父さんはいそがしいのに、ポケモンのえいがを見に行こうと言いました。
お父さんはうれしそうな息子の顔を見てほほえみました。	
良い特性・悪意	悪い特性・善意
たける君は、お父さんを喜ばせるのがすきなやさしい子です。	ともお君は、わがままで自分のことばかり考えている子です。
お父さんはいそがしいのに、ポケモンのえいがを見に行こうと言いました。	お父さんが好きなサッカーの試合を、いっしょに見に行こうと言いました。
お父さんはうれしそうな息子の顔を見てほほえみました。	

図 1： 実験 1 で用いた物語で、「良い結末」の例です。一文ずつ自分のペースで読み、3 文目の結末文を読んだあとに、登場人物が「良い子」か「悪い子」かを判断してもらいました。

2. 研究手法・成果

自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder: ASD)がある小中学生に、登場人物の特性と行動、物語の結末を操作した文章を読んだ後に、登場人物に対して善悪判断を行ってもらいました。その結果、一人の登場人物を読み返しの出来ない状況で判断する場合(図 1)、二人の登場人物を比較可能な状況で判断する場合(図 2)の両方において、ASD がある小学生、中学生は、登場人物の特性よりも、明示された行動に基づいて善悪を判断することがわかりました。特に、図 3 のように、ASD を持つ小中学生が、一時的に良い行動を示した悪い子に対して「良い子」であると判断しやすいことが示されました($F(1, 37) = 10.90, p = .00, \eta_p^2 = .23$)。さらに、ASD を持つ小中学生において、良い行動を示した悪い子の結末文(平均 2725.0 ミリ秒)のほうが、良い行動を示した良い子の結末文(平均 3295.3 ミリ秒)よりも、読み時間が長くなることがわかりました($F(1, 18) = 7.20, p = .02, \eta_p^2 = .29$)。

<p>りんさんは、いつもいたずらをしている子です。</p> <p>お母さんのお手伝いをしようとして、テーブルをかたづけしていました。</p> <p>大事な花びんが落ちてわれて、お母さんは悲しみました。</p>	<p>ゆきさんは、お手伝いを良くしてくれる子です。</p> <p>高い所にあるおかしをぬすみ食いしようと、たなの上にのぼりました。</p> <p>大事な花びんが落ちてわれて、お母さんは悲しみました。</p>
--	---

どちらが悪い子？
 りんさん 青のボタン
 ゆきさん 赤のボタン

悪い結末 悪い特性・良い行動 vs 良い特性・悪い行動

図 2 : 実験 2 で用いた物語で、「悪い結末」の例です。実験 1 と違い、文の読み返しが可能で、登場人物の特性、行動、結末が常時参照できるので、特性と行動のどちらを手がかりに善悪判断をしたかが明確になります。

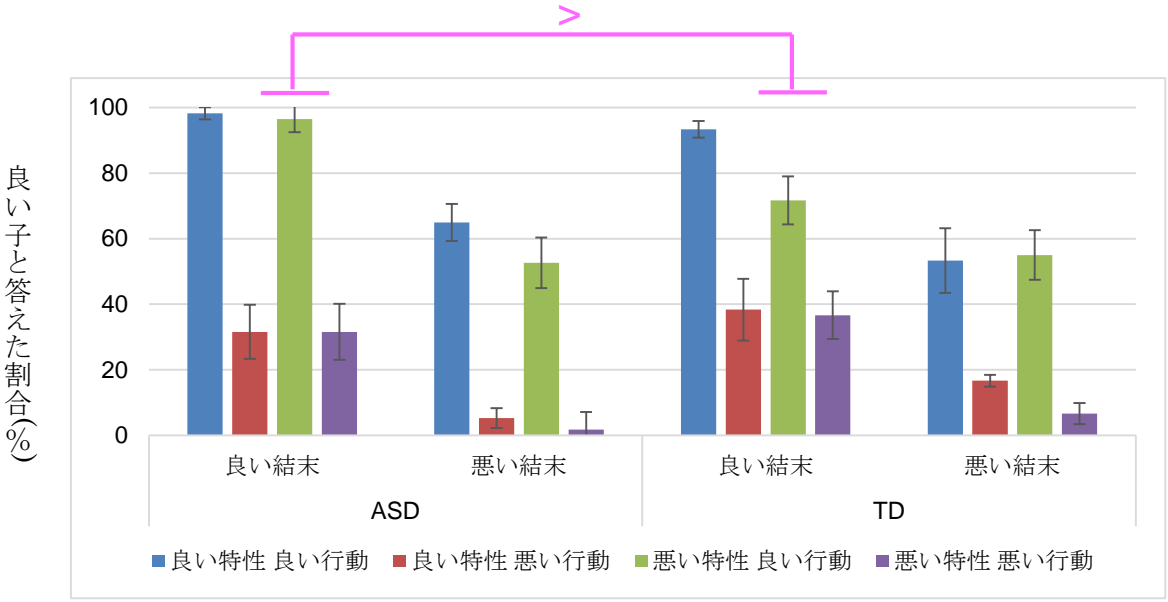


図 3 : 実験 1 における善悪判断における ASD 群と TD 群の差異を示しています。

二人の登場人物を比較可能な状況で判断する場合(図 2)、図 4 のように、ASD がある小中学生は、結末による行動手がかりの差が見られませんでした。TD の小中学生は、結末によって行動を手がかりとする割合に違いが見られることがわかりました($F(1, 19) = 5.17, p = .03, \eta_p^2 = .21$)。つまり、TD の小中学生は、悪い結末のときに善悪判断をする際に、行動だけではなく、登場人物の特性を考慮して判断することがわかりました。

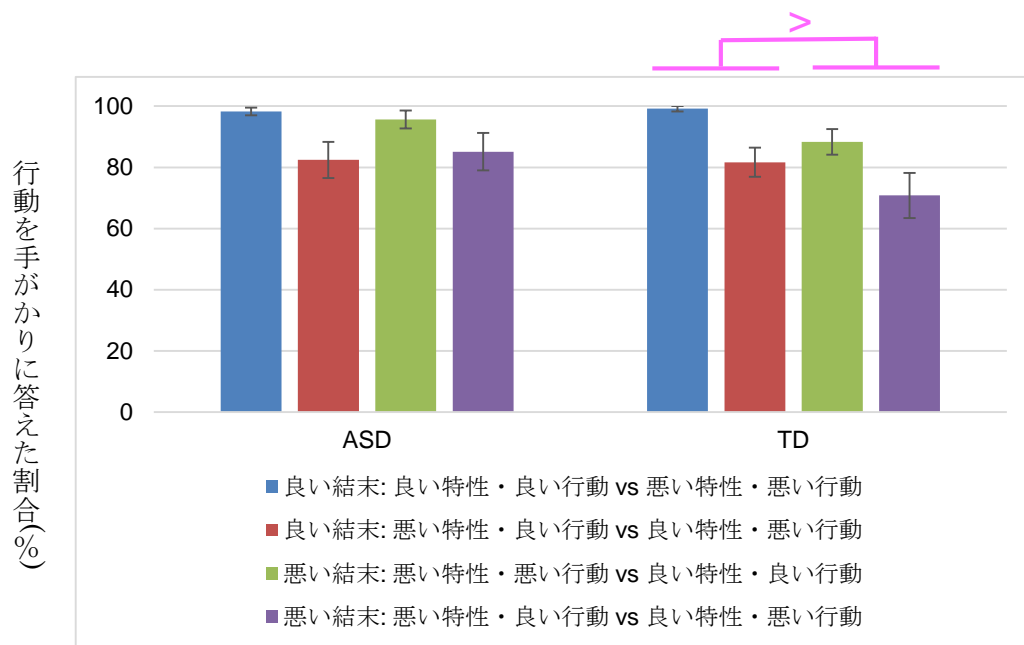


図 4：実験 2 における比較による善悪判断における ASD 群と TD 群の差異を示しています。行動を手がかりに答えた割合が低いということは、特性を手がかりに答えた割合が高くなることを示します。

3. 波及効果

本研究では、特性と状況に依存する行動、結末を組み合わせた物語を作成したことで、内観に頼らないで、善悪判断の方略を検討できる方法を開発しました。従来の研究では、ASD を持つ児童は悪意の理解が困難で、他人にだまされやすいということが言われてきましたが、本研究から、悪意を理解することが困難な原因として、他者が持っている特性に基づいてその人がこれから行いそうなことを予測することが困難である可能性が示され、自閉スペクトラム症の他者判断について、新たな知見を提供しました。

波及効果として、詐欺被害の防止といった現代的な問題に対して基礎的な研究に基づいて示唆を与えることができると考えます。学校や社会など対人関係において見られる、いじめをいかにして抑止するのかといった教育場面へも有効な知見を提供できると考えられます。

4. 今後の予定

ASD に限らず、他者に対して共感をするのが難しい人たちがいます。そうした人たちの善悪判断を検討することで、善悪判断に与える共感の効果を検討します。

<参考>

本研究の一部は、科学研究費「自閉症スペクトラム障害をもつ青年および児童に対する日常生活スキル支援の研究」、「物語における時間認識の身体・神経基盤」、ならびに、博報財団児童教育実践についての研究助成「高機能自閉症児・者の感情理解方略メカニズムの解明」の成果によるものです。

<用語解説>

自閉スペクトラム症とは、社会性および対人コミュニケーションの困難さ(暗黙の了解がわからなかったり、アイコンタクトを用いたり理解することが苦手など)、過度に強いこだわり(物事の順序にこだわり、予定の変更を受け入れることができないなど)によって診断される神経発達障害(Neurodevelopmental disorder)です。